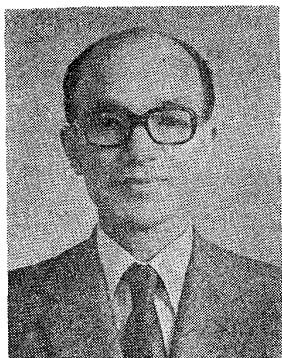


## 随 想

## 新年を迎えて

荒 木 透\*



新年あけましておめでとうございます。

私どもの日本鉄鋼協会は、本年度で創立 64 周年を迎えます。当協会設立の当初よりの「鉄鋼に関する学術、技術の研究調査を行なつて鉄鋼工業の振興発達を期する」とする基本理念は戦前戦後を通じて変わりませんがこの間鉄鋼に関する技術面の進歩発展は著しく、これに対応して当協会の役割りも、時代の変遷とともにますます重みを加えてまいつてきていることを感じます。

最近の 20 年間におきまして、日本の鉄鋼産業は目をみはるような成長と発展を遂げました。その背景には、旺盛な技術研究活動により年とともに多くの技術革新を成就してきた本会会員諸兄の活躍があげられます。

このことを当協会の事業の面から眺めてみますと、約 15 年前、春、秋の大会において研究講演発表の数は 200 を前後しておりましたが、その後急成長を遂げ、昨年秋の大会の研究・講演発表の数は 500 件を上まわるに至っていることにも象徴されております。大会各会場におきましては、学術的基礎に関連する研究討論が行なわれる一方、併行して現場のプロセスや技術開発に関する実際的な研究発表と討論もますます活発に行なわれ、参加する研究者、技術者の層が質的量的に厚くかつ広い分野にまたがってきていることが感じられます。

また、当協会の重要な活動の一つであります共同研究会も、製鉄、製鋼をはじめ 17 の部会を数え、各部会活動において会員による技術研究の発表討議と情報知識の交換に多大の実績を挙げつつあります。これによつて技術革新の成果に多大の貢献をしてきていることは疑いのない処であります。各部会とも、それぞれの分野の専門技術を追求する研究者、技術者の相互接触の場を提供することにおいても重要な役割りを果たしてまいつているものと存じます。

このような例にみられますように、我が国における鉄鋼関連の研究者、技術者は、質的に高い能力を持つた人材が工業の現場に近い部署にも多く配置されておきまして、旺盛な研究心と高い知識をもっており、つねに技術革新の最前線にあつてその使命を果してこられたことが今日の世界をリードする高い技術水準を得るに至つた一因と思われまふ。まさに我が国はこのような点において、他の欧米先進諸国に誇りうるような質と量の両面に恵まれた技術研究陣を容して高度の成長と繁栄を実現してきたと申すことができまふ。

現在の国際環境は経済面からみて多くの困難な課題をかかえております。石油危機以来の停滞した成長に即応して安定した繁栄を持続するためには、これまでわれわれが高度成長期に示してきたものより

\* 本会会長 金属材料技術研究所所長 工博

以上の努力が必要であり、これによつて質的な転換のための技術革新を達成してゆかなければならないと思われます。

現在未踏の技術、オリジナルな発想から生み出される革新技術を実用にまで育て、実際的な効果を發揮するためには、多くの場合広い知識と専門の異なる能力の結集と協力が要求されます。当鉄鋼協会の会員諸兄は我が国鉄鋼技術のバックボーンとも称すべき研究的素質の高い技術者の集団を形成していますが、なお鉄鋼生産の周辺技術、使用者側の技術等幅広い他分野の研究者、技術者との協力関係が樹立されてゆくことが望まれます。他の専門分野の学会との協力による、例えば、日本圧力容器会議等の今後の活動や、共催シンポジウム、境界分野、協力分野にまたがった国際会議の開催などの活発化が期待されるゆえんであります。

本年も当協会は、創立よりの目標であります学術と技術の調和し融合した進歩発達によつて我が国の鉄鋼業の新しい発展を目指して邁進してゆくことと存じます。各種の研究活動と奨励事業、会誌の刊行、鉄鋼技術情報処理、標準化事業への協力など、関係各界の御指導御支援を得てますますその活躍を盛んにすることと存じます。諸先輩、ならびに会員各位のご鞭撻ご協力を伏してお願い申し上げます。